



つるかめ新聞

2026年

6.7月号

第351号 (令和8年6月12日発行)



お知らせ

介護保険施設等に入所する一部の方の食費・居住費が令和8年8月1日から変わります。負担限度額認定証をお持ちの方は、請求書と一緒に同封された厚生労働省からのお知らせをご確認ください。

料金についてご不明な点があれば、事務所までお問い合わせください。

5月20日に須恵保育園園児の「ふれあい訪問」がありました。年長・年中組の園児41人が、ステージで童謡「こいのぼり」「ことりのうた」を合唱し、「まじめな忍者」など4曲の踊りを元気いっぱい披露してくれました。交流の時間には、入所者と手をつないでまねっこ遊びを一緒に楽しみました。入所者さんは、園児のかわいい踊りや姿におもわず笑みがこぼれ、世代を超えた心温まる交流のひとつとなりました。

Enjoy Life

エンジョイライフ

5月26日に、ANAグループ様から入所者のみなさんに、北海道で栽培され

れたすずらんの切り花と、すずらんの香りがするしおりをいただきました。切り花はみなさんが観賞できる場所に飾らせていただきました。ありがとうございました。



認知症の世界ってどんなもの？

『認知症の世界』は、単に「物忘れが増える」だけではなく、時間・場所・人間関係・感情の感じ方そのものが少しずつ変わっていく体験です。外から見ると「理解できない行動」に見えても、本人の中では「自分にはそう見えている・感じられている」世界で生きています。

認知症の方が体験しやすいこと

- ・時間が混ざる
無足の記憶が鮮明になり、「今」が曖昧になる。
何十年も前を現在のように感じることもある。
- ・場所の意味が変わる
自宅なのに「ここが自分の家ではない」と感じる。
病院や施設が知らない世界に見える。
- ・人の認識が揺れる
家族を若い頃の姿として認識する。
配偶者を「兄弟」「親」と思うことがある。
- ・不安が強くなる
理解できない状況が増えるため、常に警戒状態になりやすい。
物を盗まれたと思い込むのも、不安の表現である場合が多い。
- ・感情は残りやすい
会話内容は忘れても「怖かった」「安心した」は長く残ることがある。

認知症の人は「何もわからない」のではなく、

- ・世界の見え方が変わっている。
- ・情報処理の方法が変化している。
- ・不安の中で意味をさがしている。

と考えると、接し方も変わります。認知症の方の発言や行動を「訂正する」より、「安心させる」「気持ちを受け止める」「否定しない」ことが、ご本人の不安や苦痛を減らすことにつながります。

私たちが見えている世界に合わせてもらうのではなく、相手の見えている・感じている世界に合わせて、共感することが認知症の方に寄り添い、心をかよわせるための大切なポイントです。



イチ押し！

昼ご飯

当施設の管理栄養士がおすすめの給食をご紹介します。

- ・ご飯
- ・さばの煮付け
- ・菜の花の酢みそ
- ・お吸い物
- ・ねりきり

